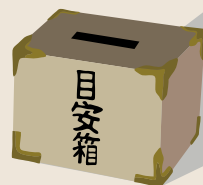


— 今月の投書 —

# インバウンド

## 放置できない訪日観光客のマナー問題



皆さんが社会に無関心になつていくのは十分に分かっていきます。しかし最近目に付く非常識な出来事で放置できないのが「道徳心のないインバウンドたち」です。

近年、円安の影響で日本を訪れる海外観光客が急増しています。特にアジア諸国、中でもC国からの観光客の数が顕著に増え、彼らの消費活動は日本経済に大きな恩恵をもたらしています。その一方で、一部の観光客のマナーの悪さが地元住民に迷惑をかけているという声も少なくありません。特にC国からの観光客に関して、文化や生活習慣の違いから、日本の公共マナーやルールを理解しないケースが目立っているのが現状です。観光地では、観光客による迷

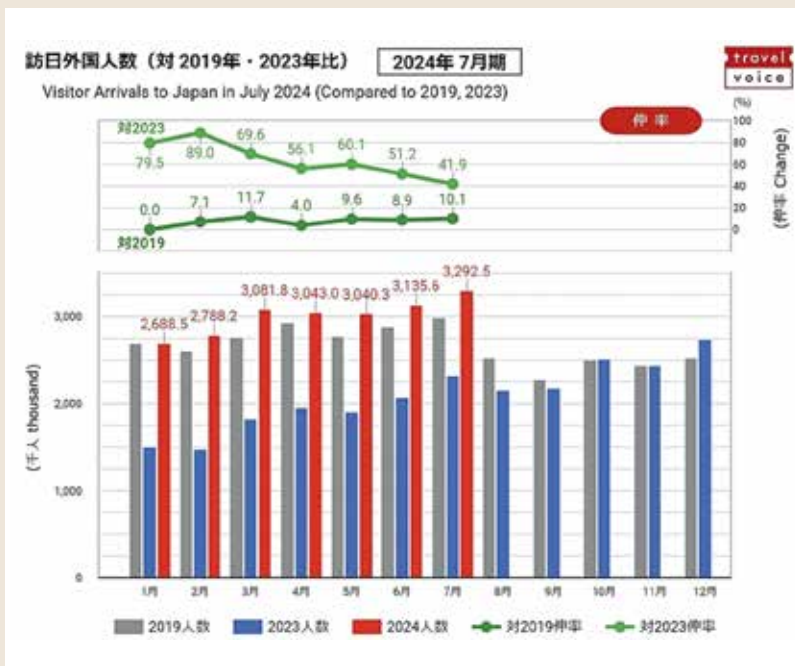
惑行為が問題視されています。例えば、有名な神社仏閣などの歴史的建造物や自然保護区域でのルール無視、禁止されている場所での写真撮影、ごみのポイ捨てが散見されます。こうした行為は、文化財や自然環境の保全に対する脅威であり、また日本の伝統や習慣を尊重しない振る舞いとして、地元住民の不满を引き起こしています。

特にC国からの観光客は、団体で行動することが多く、その規模の大きさが問題を顕著にしています。例えば、公共の場での大声での会話や列に割り込む行為、飲食店での食べ残しなど、日常的なマナー違反が指摘されています。こうした行為は、他の観光客や地元の人々にとって迷惑となるだけでなく、C国か

らの観光客全体に対する偏見や否定的なイメージを生む要因ともなっています。

この問題に対処するために、日本国内でも観光客向けのマナー啓発が重要です。多言語対応のガイドラインや注意喚起を強化し、観光地での適切な行動を促すことが求められます。また、国としてルール違反に対す

る罰則を明確にし、実施することで、マナー違反を抑制することができるとでしょう。観光客と地元住民が共存し、共に地域を楽しめる環境をつくり出すために、今後も両国間での協力と啓発が重要となるでしょう。ただし、今の日本政府にそれができるかはまだ疑問です。



出典：日本政府観光局